

業界から一言

製造業

食料品製造／洋菓子関連は、国内向け贈答用が低調のため、前年比二〇%減。水産物加工は、結婚披露宴用食材部門が好調で前年比十八%増。

繊維・同製品／傘地は、デパートへの春物の納入により売上増だが、原材料等の値上げの影響で収益が悪化。ネクタイ製造は、企業間格差が拡大。服地は、秋冬物の打合せやサンプル作成で多忙だが、春夏物は低調。

木材木製品／流通部門の販売量・仕入量は微増。製造・流通部門とも販売・仕入価格は不変だが、上向きの業者もある。素材価格は、下げ止まり感があるが、全体的には価格が伸びず苦況。

紙・紙加工品／原油価格の上昇と国際パルプ市場の上昇により、今後の収益への圧迫は必至。

印刷／前年比減であるが、例年同様、三月の売上高は年間最高の実績。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、前年比減、年間全体では二〇%減。治山や

堰堤などの公共土木物件の減少に加え、民間設備投資の減少が大きな要因。

鉄鋼機械金属

／各メーカーの年度末の駆け込み需要があり、七〇%の稼働

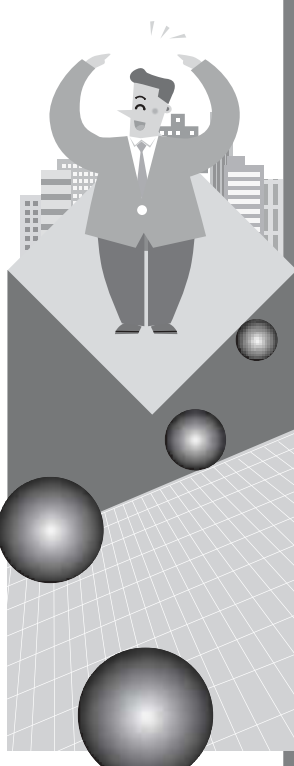
状況。新年度も大きな好転は期待できず、現状維持で推移すると予測。一部組合員の売上に微減が見られ、全体に弱含み。

宝飾品／売上高は前年比増であるが、景気回復の動きは見られない。

非製造業

小売業／各食品小売業とも収益が悪化。家電業界は、需要期にもかかわらず四ヶ月ぶりに前年比減。主力のカラーテレビ、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジが全て前年割れ。自動車は、小型車の販売台数は増加したが、売上高は減少、収益は悪化。

ガソリンスタンドは、三月下旬から原油価格上昇の未転嫁分の小売価格への転嫁を行ったが、さらに急騰が続いたため、四月には五円程度の価格の値



景況情報

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告
(平成17年3月分)

調査対象の50業界のD I値は、製造業においては、「売上高」は悪化、「収益状況」はやや回復、非製造業においては、3指標ともやや回復し、全体としては「業界の景況」「収益状況」がやや回復した。

一部の企業においては好況感も見られるが、原油価格の高騰の直接・間接の影響による経費の増加とそれに伴う運転資金の増加による資金繰りへの影響により中小企業の経営は一段と厳しくなっており、全産業において企業間格差がますます拡大している。

上げが必要。

サービス業／ホテル・旅館は、三月は前年並みであったが、愛知万博の影響のためか四月以降の予約件数が減少。甲府市内のホテルは、日帰り出張の増加、長期滞在がウイークリーマンション等において、苦戦。組合員間において、企業間格差が拡大。自動車整備は、車検整備需要が前年比〇・九%減、平成十六年度累積で二・二%減。各社の収益状況が悪化し、業界の景況感は悪化。

建設業／平成十七年度の山梨県公共工事設計労務単価が八年連続前年割れで、前年比一・八%減。公共工

事予算も前年比三・四%減となっており、建設業界は今年も厳しい状況が続くと予測。民間工事は、秋頃までは、大型マンション建設・老人ホームなどの物件が続く見込みであるが、受注競争により工事単価が年々低下し、県内業者では採算割れで受注できない状況。鉄鋼工事は、原油高等の影響で鋼材価格の高騰が続いており、鋼材価格の高騰が、資金繰りをますます圧迫しているが、金融機関が運転資金を融通するような状況にない。

運輸業／タクシー業界全体の景況は良くないが、三月は異動の時期であり五・七%の売上増。軽貨物は、月後半は異動に伴う引越し依頼が増加し、断るほどであったが、スポット配送は前年比微減。トラック輸送は、売上高は前年並みであるが、荷動きが若干減少傾向に転じた。企業間格差が拡大し、保有台数の多少により景況感に格差。受注量の減少と運賃の低迷、環境事故防止対策費、燃料費などの経費負担増が、収益を圧迫し、事業休止、廃業が増加。